

第4回 5市市長が語る地域自治体連携シンポジウム

福生市

1. 市の紹介

福生市のプロフィール

◆面積 10.24 km² ◆人口 5万8,955人 ◆世帯数 2万9,121世帯
(平成25年10月1日現在)

[将来都市像]

このまちが好き 夢かなうまち 福生

[まちの特徴]

米軍横田基地がある福生市は国際色豊かなまち。多摩川などの豊かな自然環境や交通の便にも恵まれ、住宅都市、商業都市として発展



[名産品]

日本酒、地ビール、ハム、福生ドッグ など

[観光]

ふっさ十景（玉川上水新堀橋付近、桜並木と多摩川、清岩院、熊川神社、神明社、みずくらいど公園、文化の森、国道16号沿いの商店街、柳山公園、南稲荷神社付近）

[イベント]

福生七夕まつり、ふっさ桜まつり、ほたる祭、福生ふれあいフェスティバル、インターナショナルフェア など

「福が生まれる」と書いて「ふっさ」と読みます。この、縁起が良い名前を持つ福生市は、都心から西へ約40kmに位置し、市の西側には多摩川が流れ、豊かな自然を有する奥多摩の山並みが近くに望めます。東側には米軍横田基地が位置し、市域の約3分の1を占めています。基地部分を除くと行政面積は6.92 km²と狭い市ではありますが、JR青梅線・五日市線・八高線、西武拝島線の4路線が走り、駅も5つあり、鉄道交通の便に恵まれたまちです。

異文化共生のまち

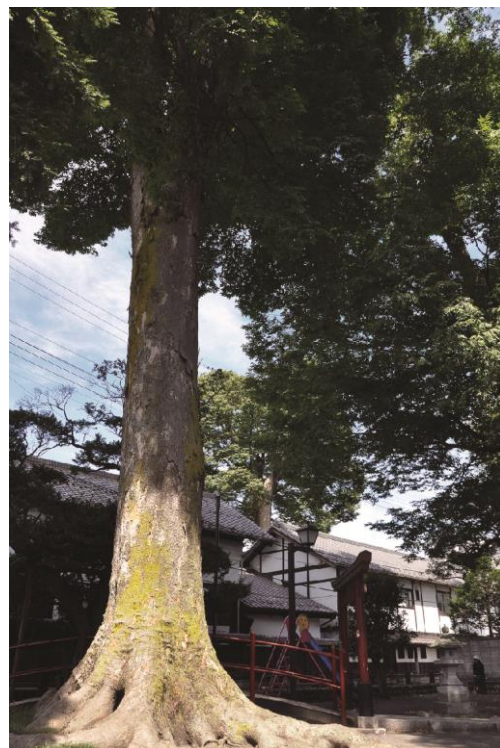
本市は2つの顔を持っています。

1つは「アメリカを感じるまち」です。まだまだ海外の情報や輸入品も少なかったころ、本市は米軍横田基地を通じてアメリカからファッションや音楽など最新の文化が入ってくる地域でした。流行に敏感な人々が連日のように訪れ、そこからアメリカと日本文化が融合した独特の文化が生み出されました。その文化を



求めて、多くの多感な若者が福生に集まり、『限りなく透明に近いブルー』の村上龍や山田詠美などの作家、また、故忌野清志郎をはじめとしたミュージシャンなど、多くのアーティストに愛されました。現在、横田基地沿いを走る国道16号線にはワシントンヤシが街路樹として植えられ、地域の商店街は「ベースサイド・ストリート」、ドルが使える商店街としてテレビにも取り上げられました。まちの味付けはアメリカ風です。

もう1つの顔は「日本の原風景を感じるまち」です。横田基地とは反対側の多摩川、玉川上水が流れる本市の西側には、江戸幕府の奨励もあって始められた酒造業や、養蚕業を地場産業として発展したまちの原型があります。玉川上水やそこから引かれた分水はまちを潤し、2つの酒蔵をはじめとした古くからの屋敷や蔵が点在し、基地や駅周辺とは趣が異なっています。



市を西から東へ、東から西へ横断するとまったく異なった世界を味わえます。異なる文化が共生するまちです。

本市を家に例えると、狭いながらも、奥多摩の緑の山々を望み、床の間がある座敷に、洋風のリビングルームを持ち、玄関から出るとすぐに都心といったところでしょうか。

「たっけー☆☆」と福生七夕まつり

平成25年3月に、「福生七夕まつり」から「福生市」のイメージキャラクターにステップアップした「たっけー☆☆」。福生市のPRのため、市内外で大活躍しています。「たっけー☆☆」は、願いが叶う(?)と巷で話題の、「たっけー☆☆ハイタッチ」で、皆さんに幸せを運びます。Twitterやfacebookで出没情報をチェックして、ぜひハイタッチにチャレンジしてみてください!

現在、実施中の「ゆるキャラグランプリ2013」にも参加し、優勝を目指しています。「たっけー☆☆」が全国的なキャラクターとなるよう、応援をお願いします。

また、福生市は、観光分野を中心に相互の連携を強化し、地域の一層の活性化と市民サービスを向上させることを目的に、ファミリーマートと地域包括連携協定を締結しました。市内ファミリーマートには、オリジナル商品第一弾「たっけー☆☆玉子せんべい」が並んでいます。今後も様々な形でPRを行っていきますので、楽しみにしてください。



が工夫を凝らした100店近い市民模擬店など、チーム福生を感じることもできる熱いまつりです。今年の来場者は、4日間で39万5千人を超えました。



ボクと、
「たっけー☆☆ハイタッチ」
してね!

今年で63回目を迎えた本市最大のイベントである福生七夕まつりでも、「たっけー☆☆1万人の願い事かなえますプロジェクト」として、みんなの願い事を叶えるために、1万人の方と「たっけー☆☆ハイタッチ」にチャレンジしました。

楽しいイベント盛り沢山の七夕まつりは、総勢1,700人が踊る「民踊パレード」や、市民

福生ドッグ

全国でご当地グルメがブームとなり、本市も商工会と連携し、魅力溢れるグルメとして、アメリカを感じることできる「福生ドッグ」を開発しました。市内にはハム工場が2社あり、ブランド豚を用いたハムなど、地域住民に非常に親しまれています。



その地域資源を生かし、特別につくった直径 2.3cm、長さ 16cm（ふっさの語呂合わせと、国道 16 号を意識）のソーセージを使い、決してB級ではないという自負を持って、市内のパン屋さん、飲食店でそれぞれ特徴のあるホットドッグ＝福生ドッグを提供しています。ネギ味噌をトッピングした和風、イタリア風、ドイツ風、和も洋も、これはまさに本市のご当地グルメといえます。

選ばれ続けるまち

平成 22 年度から第 4 期の総合計画がスタートしました。この計画では、誰もが未来に夢を持って、ずっとこのまちに住み続けたいと思っていただけるよう、様々な行政課題に対応しようとしています。

しかし、厳しい財政状況、少子高齢化、人口の減少というトレンドの中、総合計画に示した施策・事業の重点化を図る必要がある

と考え、平成 23 年度から魅力あるまちづくりを進めるシティセールスに取り組んでいます。市内施設などを利用したテレビドラマや映画の撮影を支援するロケーションサービス、電気自動車や電動アシスト付き自転車を活用しての観光事業「次世代モビリティ活用モデル事業」や、前述の「福生ドッグ」もその一環です。また、本市の魅力を再発見、あるいは創造し、発信するためにシティセールス推進課を設置して「訪れたい、住みたい、自慢したい」まち、皆さんに選ばれ続けるまちづくりを進めてきました。

そして現在は、「まちづくり総合活性化研究」により、5名の大学教授とともにまちを構成する様々な要素を分析し将来人口予測等を研究するほか、「子育てするなら福生」をキャッチフレーズに、まちを活性化させていく原動力にもなる子育て世帯の定住化を目指しています。



赤ちゃんはじめての絵本事業

2 環境と共生する持続可能なまちづくり

《私たちが変わり 私たちが変わる エコシティふっさ》

福生市では、平成14年3月福生市環境基本条例を制定しました。この条例に基づき、市民・事業者・市の協働を基調に、人と自然の共生する健全な福生市の実現に向けて、望ましい環境像の設定や目標・方策を明らかにするために、福生市環境市民会議による「市民プラン」の提言を反映し「福生市環境基本計画」（平成16年度～平成35年度）を策定しました。

【福生市環境基本計画】

将来像：「私たちが変わり 私たちが変わる エコシティふっさ」

基本目標：福生の自然や文化を伝えていきます

：人と暮らし中心のまちをつくります

：環境を考えライフスタイルを変えていきます



たまちゃん

(1) 福生の自然や文化を伝えていきます

① 自然の水循環、自然環境保全

福生市は、水と緑の自然豊かな環境は、ひとつのセールスポイントです。雨水浸透により地下水・湧水を保全するなど、渇水期にも豊かな流れのある川、安心して水遊びができる水質の確保、湧水の保全や自然な水循環の確保に努めています。

② 自然環境学習・河川清掃活動、河川生態系の保全

市民・事業者・市が一体となって環境について楽しみながら考える「ふっさ環境フェスティバル」、国土交通省の水辺の楽校プロジェクトの一環でもある「福生水辺の楽校」の多種多様な学習プログラム等を通して、川とその周辺の自然環境、生きものへの親しみなど自然環境学習を推進しています。



■ふっさ十景「清岩院」(湧水)



■水辺の楽校「いかだにのろう」

福生市

また、市民・ボランティア等による河川一斉清掃も年々盛んになってきております。

なお、平成 25 年 4 月 23 日に「福生水辺の楽校運営協議会」が、多摩川を中心に、子どもを対象とした環境学習事業に取り組むなど、自然とのふれあい及び普及啓発活動に尽力したことにより、平成 25 年度「みどりの日」自然環境功労者環境大臣表彰の自然ふれあい部門で表彰されました。



■河川一斉清掃

③ 4つの自然軸の保全、自然生態系の再生

福生市の自然の骨格となる立川段丘の崖線、玉川上水、拝島段丘の崖線、多摩川の4つの樹林帯の東京都景観保全条例による規制、開発指導要綱による指導をはじめ、緑地保全地区の指定など持続性の高い方法で保全に努めます。

また、福生市の生物多様性戦略の一環として、国、東京都等の施策と連携し、「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」に基づき特定外来生物に、指定されているアライグマをはじめ、既に移入が確認されている外来種・移入種のうち、生態系に与える影響が大きい種のハクビシンについて、地域のNPO法人・市民・東京都等と協働による外来生物現況把握実態調査結果等を踏まえて、生物多様性に関する理解の促進に努めるとともに、自然生態系の再生に努めています。



■ふっさ十景「玉川上水新堀橋付近」



■特定外来生物「アライグマ」農林水産省「野生鳥獣被害防止対策マニュアル」より

(2) 人と暮らし中心のまちをつくります

① 花いっぱい運動、市民環境大学

花いっぱい運動は、市内に花を植栽し、まちの景観美化と市民に豊かな気持ちを持っていただくなどの願いをこめて、平成2年に農業委員会が中心となり、市内4か所から、スタートしました。

現在では、町会・自治会、市民団体、市内事業所、公共施設等の全市的に展開している事業です。

平成22年度からは、春と秋の年2回、花いっぱいコンテストを実施し、広く市民に親しまれております。

最近では、ふっさ花とみどりなどが中心となって実施している「市道やなぎ通り」「国道16号線」の歩道に季節の花を植栽する活動に横田基地軍人のボランティアサークルの方々に参加いただきました。



■花いっぱい運動一環事業

また、市民環境大学は、平成16年度から始まり、市民を対象に、地球温暖化、ごみ問題、バリアフリー、緑地など幅広いテーマで講座が開催され、比較的関心の高い市民に対し、学習の機会を提供し、行政施策への意見を抽出するなど、一定の成果を上げております。

平成22年度からは、更に幅広い年齢層の参加者、特に若い世代を巻き込む必要性から、親しみやすい内容のダイズを育てる農作業体験を軸に、福生の自然、水循環や地産地消などの要素を入れる体験型の講座としたところ、新たな参加者層を開拓でき、好評を得ており、受講者の中から地域の環境リーダーの育成も図っております。



■市民環境大学ダイズを育てる農作業体験型講座

② 公共施設・道路照明等のLED化

東日本大震災以降、電力需要の抑制は、社会的な要請となっております。光熱水費等のランニングコスト、固定経費の削減が図れる、公共施設等照明のLED化は、福生市環境基本計画における地球温暖化対策等を推進していく上でも、重要な施策として、順次導入計画を立て取り組んでおります。

■わかぎり会館・図書館（照明設備LED化）

平成25年5月にリニューアルオープンいたしました「わかぎり会館・図書館」では、照明設備がすべてLED化されております。この施設は、図書館、地域会館、学童クラブという様々な利用目的がございますので、この施設を活用して、LED照明のモニタリングを行い、公共施設等の多様な利用目的に併せた効果的なLED照明の選択方法・共通仕様書の作成等について、研究・検討いたしております。



また、平成25年度・平成26年度の2か年で、市道道路照明灯3,356灯のLED化を実施いたします。

※①

■LED化予定の道路証明灯



③ 福生市清潔で美しいまちづくり条例

市内におけるポイ捨て及び犬のふんの放置を防止し、並びに、路上喫煙及び歩行喫煙を規制することにより、清潔で美しいまちづくりを推進し、もって市民の快適な生活環境を確保することを目的として、「福生市清潔で美しいまちづくり条例」を平成22年12月に制定しました。



■清潔で美しいまちづくり条例

平成25年2月に「清潔で美しいまちづくり重点区域」を指定し、市民への周知を図り、ワンランク上の規制である「路上禁煙区域」について、平成25年度中の指定を目指しております。

(3) 環境を考えライフスタイルを変えていきます

① 次世代モビリティ活用モデル事業「カーシェアリング・サイクルシェアリング」

福生市のまちなかおもてなしステーション「くるみるふっさ」事業の一環として、「カーシェアリング・サイクルシェアリング」の実証実験事業を実施しております。

この事業は、次世代モビリティ活用モデル事業として、これまでの自動車を所有するという概念から共有するという概念への移行を図るため、シェアリングの手法を用いて、電気自動車、電動アシスト自転車を活用する事で、化石燃料を使用した自動車からの転換を図るとともに温室効果ガスの削減を目的とした事業です。



■くるみる ふっさ

また、さらにこの仕組みを市外の方にも広くPRを行う事で、市の観光交流人口の増加も見込み、環境と観光の双方の観点から進めている実証実験です。

平成24年度の年間実績におけるCO₂の削減量は、カーシェアリングでは約5.5t、サイクルシェアリングでは約3.8tで、合計9.3tのCO₂の削減です。

※②

② 資源循環型まちづくり

小型家電製品のリサイクルについては、平成20年度の携帯電話回収実験から取り組んでおり、平成25年4月に「使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律」が施行され、リサイクルを適正に行える事業者が認定されたことにより、同法に基づく小型家電製品の収集・引渡しを行うことで、平成25年10月から本格実施しました。



また、平成26年度から、ごみの収集回数 ■小型家電回収ボックスとたっけーを減らし、資源の収集回数を増やすという現状に適した収集体制の変更を行い、更なるごみの減量と資源化の促進を市民と一体となって行っていくことで、資源循環型のまちづくりを目指します。

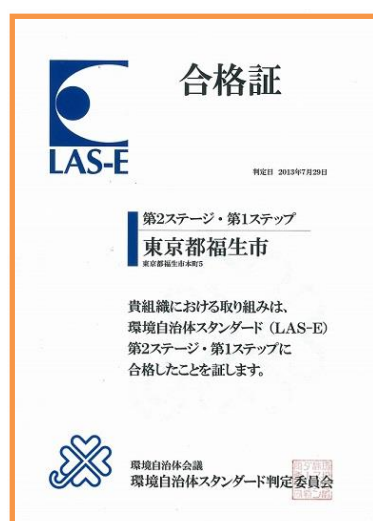
③ 福生市環境マネジメントシステム・LAS-E

環境マネジメントシステムとは、事業者の活動によって生じる環境への負荷を低減するよう配慮・改善するため、PDCAサイクルで、システムを継続的に改善していく仕組みです。

これからの自治体のあるべきシステムの姿は、地域全体の環境保全に責任を持ち、市民による環境自治により実現するものと考えます。そのためには、市の環境政策全般、全職員、全施設を対象とし、市民自治のしくみをいれたものが必要になるとの考えのもと、福生市では、環境自治体スタンダード「Local Authority's Standard in Environment」をLAS-E（略称ラス・イー）が、自治体の環境政策推進や環境に関する情報ネットワークづくりを目的として、1992年に発足した環境自治体会議の付属機関である「NPO法人環境政策研究所」が開発したシステムを導入しております。

市民、事業者、環境政策専門家との協働で目標設定、監査をすることが特徴です。

レベルに合わせて、第1ステージから第3ステージまで設定されておりまして福生市は、第2ステージ第1ステップに合格しております。



【参考としての補足説明】

※①：道路照明灯のLED化後のCO₂（二酸化炭素）排出量の推定といたしましては、東京電力の料金区分ごとに灯数に消費電力・年間点灯時間・CO₂ 排出係数を乗じて算出いたしますと、平成24年度実績に比較して約883t、率にして、80%ほど、CO₂ 排出量が、削減されることとなります。このCO₂ 削減量の883tは、杉の木で換算すると約63,071本となります。

※②：カーシェアリングとサイクルシェアリングの合計CO₂ 削減量の約9.3tは、杉の木で換算すると約664本分となります。